

Consideration about the current professional baseball popularity judging from the history

1K07B043-3

奥山健大

指導教員 主査 宮内孝知先生

副査 木村和彦先生

【研究の動機、目的】

日本のプロ野球は非常に歴史があり、昔から多くの人に愛されてきた。しかし今日、ニュースなどでよくプロ野球の人気低迷などの言葉を耳にする。しかし一方筆者は出身地である札幌で、北海道日本ハムファイターズによる野球人気を感じることも多い。そこで、現在のプロ野球人気低迷について歴史的観点から考察すると同時に、なぜ頻繁にプロ野球人気低迷が話題になるのか考察したい。

【第1章 プロ野球を始めとするプロスポーツについて】

第1章ではプロ野球を始めとする「プロスポーツ」について明らかにした。内海(2004)によると「プロとはスポーツを見せることによって生活の糧を得ることをいう。つまりスポーツによって金を稼ぎ、それを生業とすることである」と定義されている。「プロスポーツ」はプロによって行われるスポーツを指す。プロ及び「プロスポーツ」の誕生は、スポーツ誕生の歴史から解明することが出来る。スポーツが誕生した原始時代、古代奴隷制、封建社会、資本主義社会それぞれの時代でのスポーツの役割の変遷を論じ、プロスポーツ誕生の経緯について考察した。

【第2章 プロ野球の歴史】

第2章では日本プロ野球の体質を知る為に、現在のプロ野球制度の誕生経緯を、歴史を振り返ることで考察していく。主に、プロ野球リーグ誕生から、1978年の江川事件までについて考察し、2リーグ制導入、読売黄金時代、ドラフト制導入について触れていく。プロ野球の誕生は1936年であり、当時読売新聞社社長正力松太郎の呼びかけがきっかけで阪神などの企業も球団を作り結成された。1950年には現在同様2リーグ制に移行するが、2リーグ制賛成派の球団と反対派の球団に分かれ、双方が歩み寄ることなく、喧嘩別れのような形で2リーグ制になった。賛成派の球団は、当時の読売主体のリーグ運営に嫌気がさし、2リーグ制を目指していた。2リーグ制導入後の1950年代はパシフィックリーグよりセントラルリーグの方が人気で、中でも特に読売が他球団より人気であった。1960年代に入ると、この傾向がより一層顕著に表れ、セントラルリーグの年間観客動員数の30%は読売によるものであ

った。1965年には戦力均衡、新人選手獲得による財政圧迫の問題を解決すべく、ドラフト制が導入された。しかし、1965年から1973年には読売がプロ野球史上他に例を見ない9連覇を達成し、読売を中心としたプロ野球になっていった。読売が9連覇を達成した時、大半の選手はドラフト制以前の自由競争制で獲得された選手であった。1978年にはドラフトと読売に関連した「江川事件」が勃発する。「江川事件」では、読売の、リーグ全体を考えず球団利益だけを考える姿勢が浮き彫りになった瞬間でもあった。

【第3章 現在のプロ野球の実態】

第3章では今日のプロ野球人気について考察していく。社団法人中央調査社が2010年4月に実施した第18回「人気スポーツ」調査によると、プロ野球を好きと答えた人の割合は50.5%であり、過去2年と比べてもほぼ横ばいである。2005年から2009年にかけての各球団の年間観客動員数の推移を見ても、ほぼ横ばいである。一方、読売の関東地区における地上波視聴率は2002年から2006年にかけて約半分に減少している。

【終章】

第2章ではプロ野球リーグ誕生、2リーグ制導入、ドラフト制導入による「江川事件」など、歴史を遡る中で、プロ野球界は常に読売主導で進められてきたことを明らかにした。第3章では人気低迷が叫ばれる現在のプロ野球において、人気スポーツ調査、各球団の観客動員数はともにほぼ横ばいであり、減少傾向は見られず、減少傾向が見られたのは読売の地上波視聴率であったことを明らかにした。第2章、第3章で明らかにした事実より、今日におけるプロ野球全体の人気は低下していないと考える。しかし、プロ野球は読売が引っ張ってきた歴史的背景から、良くも悪くも、人々から1番意識されている球団は読売であり、読売の地上波放送減少の動きだけが注目され、プロ野球全体の動きとして捉えられたことにより、プロ野球全体の人気の低下の話題が多く出るようになったと考えられる。これを本研究の結論とする。